

国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2007)のポイント

【調査概要】

- 児童生徒の算数・数学、理科の到達度を国際的な尺度によって測定し、児童生徒の学習環境等との関係を明らかにする。
- 国際教育到達度評価学会(IEA)が、日本では小学4年生、中学2年を対象に2007年3月に実施。

【結果概要】

- 平均得点はすべて前回以上。
- 前回調査から調査参加国が増加した(小:25→36カ国)が、国際的に見て上位を維持。

【教科別の結果】(平均得点:全生徒の平均得点を500点、全生徒の3分の2が400点から600点に入るように標準化した各国の得点)

○小学校 2007年調査結果(36カ国) 前回(2003年)の調査結果(25カ国)

算数

568点 (4位)

565点 (3位)

理科

548点 (4位)
3位の香港と有意差なし

543点 (3位)

○中学校 2007年調査結果(48カ国)

前回(2003年)の調査結果(46カ国)

数学

570点 (5位)
4位の香港と有意差なし

570点 (5位)

理科

554点 (3位)
2位の台湾と有意差なし

552点 (6位)

(※ただし、2007年調査結果はいずれの教科も平均得点はすべて前回以上であるが、統計上の誤差を考慮すると前回と同程度となる。)

【わが国の児童生徒の特徴】

算数・数学、理科に対する意識等については、

- ・ 勉強が楽しいと思う割合は、前回調査と比べ、小学生では増加傾向が見られ、特に理科で国際平均を上回ったが、中学生は国際的に見て数学・理科ともに依然低い。
- ・ 希望の職業に就くために良い成績を取ると思う中学生は、国際的に見て依然として少ないが、前回調査と比べて数学・理科ともに増加傾向。

学校外での時間の過ごし方については、

- ・ 依然として宿題をする時間が短く、テレビやビデオを見る時間が長く、家の手伝いをする時間が短い。
- ・ 小学生の宿題をする時間は増加傾向。